

生活福祉論

概要

現代社会における福祉問題(生活上の困難や障害)を概観し、それら福祉問題を解決・緩和するための制度やサービスについて取り上げる。また、援助者や援助方法、援助観等についても触れる。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解することができる。
 社会福祉と児童福祉および児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる。
 社会福祉の制度や実施体系について理解することができる。
 社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。
 社会福祉の動向と課題について理解することができる。

各回の内容

1. 保育と社会福祉
2. 社会福祉の考え方と役割
3. 社会福祉の歴史
4. 社会保障制度
5. 社会福祉の制度・法体系
6. 社会福祉の実施機関・行財政
7. 社会福祉の施設
8. 子どもの人権と児童家庭福祉
9. 社会福祉の専門職と倫理
10. 相談援助の意味と方法
11. 福祉サービスの利用支援・第三者評価
12. 権利擁護と苦情解決
13. 地域福祉
14. 関連分野との連携・ネットワークおよび諸外国の動向
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

橋本好市・宮田徹 編 『保育と社会福祉』(株)みらい

参考文献

その都度、紹介する。

相談援助

概要

相談援助の方法と技術について理解し、具体的展開について理解を深める。また、保育とソーシャルワークの関係について理解し、さらに保育におけるソーシャルワークの応用について理解を深める。理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討を行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

相談援助の概要について理解することができる。
 相談援助の方法と技術について理解することができる。
 相談援助の具体的展開について理解することができる。
 保育におけるソーシャルワークの応用について理解を深めることができる。
 事例検討をととして相談援助の対象についての理解を深めることができる。

各回の内容

1. 相談援助の概要
2. 相談援助の対象
3. 相談援助の過程
4. 相談援助の技術とアプローチ
5. 相談援助の計画・記録・評価
6. 相談援助の協働・連携および社会資源の活用、調整、開発
7. 事例検討
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

使用しない。

参考文献

その都度、紹介する。

子育て支援論

概要

家庭支援の意義、目的と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況や課題、子育て家庭への支援体制、多様な支援の展開と関係機関との連携などについて学び、理解を深める。保育の専門性を活かした支援についても理解し、保育者になった際の支援の在り方も考える。

担当教員	長谷川 美香
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

1. 子育て家庭への支援の意義や目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした、子ども家庭支援の意義、基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援体制について理解する。
4. 子育て家庭へのニーズに応じた多様な支援展開と、支援の現状や課題について理解する。

各回の内容

1. 子ども家庭支援の意義、必要性
2. 子ども家庭支援の目的や機能
3. 保育の専門性を活かした支援、意義
4. 保育士が、子どもの育ちの喜びを共有すること
5. 保育士の、保護者・地域の子育て実践力を向上するための支援
6. 保育士が支援するうえで必要な態度、姿勢
7. 保育士の、個々の家庭状況に応じた支援の必要性
8. 保育士の、地域資源の活用、自治体や関係機関との連携
9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10. 子育て支援政策、次世代育成支援政策の推進
11. 多様な支援の展開、関係機関との連携（子ども家庭支援の内容や対象）
12. 多様な支援の展開、関係機関との連携（保育所などを利用している家庭への支援）
13. 多様な支援の展開、関係機関との連携（地域の子育て家庭への支援）
14. 多様な支援の展開、関係機関との連携（要保護児童や家庭への支援）
15. 多様な支援の展開、関係機関との連携（子ども家庭支援の現状、課題）、まとめ

準備学習（予習・復習等）

教科書や授業での配布資料をよく読み、予習、復習をする。また、家庭支援や子育てに関する最近のニュース、国、地方自治体の政策などにも目を向ける。学内の「親と子の広場」や、その他の親子とかわりあいを持てる場において、子育て家庭の現状を見聞きし、把握するなど、体験的に学ぶことも望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポートと授業の振り返り30%、グループワークへの取り組みや発表内容20%、課題レポート50%

教科書

「よくわかる子育て支援・家庭支援論」(やわらかアカデミズム・“わかる”シリーズ)、大豆生田啓友ら編、ミネルヴァ書房

参考文献

その都度、紹介する

保育相談支援

概要

保育相談支援の意義について理解し、また、その内容や方法を理解する。また、保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解を深める。
理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討を行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育相談支援の意義について理解することができる。
保護者支援の基本を理解することができる。
保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解することができる。
保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解することができる。

各回の内容

1. 保育相談支援の意義
2. 保育相談支援の基本
3. 保育相談支援の基本
4. 保育相談支援の実際
5. 保育相談支援の実際
6. 保育所における保育相談支援の実際
7. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：親と子の広場や実習における事例について、保育相談支援の視点で考えてみる

各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

松井圭三・小倉毅・今井慶宗 編著『NIE家庭支援論演習』大学教育出版

参考文献

その都度、紹介する。

幼児理解の理論と方法

概要

保育を行うためには子どもへの理解が不可欠である。本授業では、子ども理解の基礎となる理論、観察と記録、カンファレンスによる省察から実践の改善の在り方を学ぶ。また、小学校との連携や、特別に支援を要する子どもへの理解、現代の子どもをめぐる問題を把握し、保育者として多面的に援助するにはどうすべきかを検討する。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育の基盤となる理論を理解する。記録の書き方、記録から援助の方法を考える力を身に付ける。さらに、現代の子どもの現状、課題を把握し、保育者として援助すべきことを考える。

各回の内容

1. 子ども理解の重要性～子ども理解から生まれる多様な援助～
2. 子どもを見るまなざし～保育者の願いと子どもの育ちのズレの現実～
3. 子どもの行為の意味を考える1～噛みつきのエピソードから～
4. 子どもの行為の意味を考える2～こだわりの強い子どもの育ちを考える～
5. 子ども理解の基礎としてのカウンセリングマインド
6. 今、求められる子ども主体の「協同的な学び」～新制度に求められる「保育の質」
7. 子ども主体の「協同的な学び」を考える1～幼稚園教育実習の保育デザインマップ作成
8. 子ども主体の「協同的な学び」を考える2～省察と対話～
9. 子ども主体の「協同的な学び」を考える3～新たな保育デザインマップを作る～
10. 保育における「観察」「記録」「カンファレンス」1～かかわりの小説と計画の改善～
11. 保育における「観察」「記録」「カンファレンス」2～施設実習について計画を作成する～
12. 子ども理解を深めるカンファレンス1～障害のある子どもの保育から考える～
13. 子ども理解を深めるカンファレンス2～人間の多様性への理解に向けて（グループワーク）
14. 子ども理解を深めるカンファレンス3～対話の共有と考察～
15. 多様な子供への子育て支援・家庭支援と小学校への接続

準備学習（予習・復習等）

「親と子の広場」「さくらっこ広場」参加など、実習以外で、子どもや保護者と関わる機会を出来るだけもつこと。
幼稚園教育実習・保育実習の実習ノートの記録を見直し、事例についてのとらえ直しを行う準備をする。
授業で紹介した文献を読み込み、自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業態度・取り組み（グループワークや発表など）30%
授業の際の小レポート30%
最終レポート40%

教科書

高嶋景子・砂上史子・森上史朗編『子ども理解と援助（最新保育講座）』ミネルヴァ書房 2011年

参考文献

子ども主体の協同的な学びが生まれる保育 大豆生田啓友編著 学研

こどもの保健

概要

子どもの健康について疾病の理解ができ、対応について理解する。
また、子どもを取り巻く環境の整備や災害時への備えも考慮した安全面について理解する。精神保健分野では子どもの置かれている現状を理解し適切な支援への学びを深める。

担当教員	山下敦子・市川陽子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

子どもの精神保健とその課題等について理解する
保育における環境及び衛生管理や安全管理について理解する。
施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。
子供の疾病と適切な対応

各回の内容

1. 子どもの疾病と適切な対応
2. 子どもの疾病と適切な対応
3. 保育現場における環境整備と衛生管理
4. 保育現場における事故防止と安全対策
5. 保育現場における災害への備えと危機管理
6. 子どもの健康及び安全の実施体制
7. 職員間の連携と組織的取り組み
8. 母子保健対策と保育
9. 家庭・専門機関との連携
10. 地域との連携
11. 子どもの精神保健
12. 子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの心の健康とその課題 　まとめ
14. こどもの食物アレルギー 市川先生
15. こどもの病気のまとめ 市川先生

準備学習（予習・復習等）

講義時に次回授業の予告をするので教科書等を読み予習を行うこと。授業後は復習を行い内容の理解に努めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

山下担当部分100%（課題レポート・提出物20%、小テスト80%）

教科書

兼松百合子 他編著『子どもの保健・実習―すこやかな育ちをサポートするために』同文書院

参考文献

その都度、授業で紹介する

こどもの保健(演習)

概要

保育における保健的な観点を踏まえ、こどもの健やかな育ちについて学ぶ。こどもの身体的な特徴として抵抗力の弱さや危険回避能力未熟さなどがある。これらの特徴を踏まえ、こどもの成長発達に沿った適切な養護の方法、体調不良時の適切な対応について具体的に理解する。

担当教員	山下 敦子
授業形態	演習
学期	2年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年生
時間数	7.5
単位数	1

目標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 関連するガイドライン()や近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・保育における感染症対策について、具体的に理解する。
3. こどもの体調不良等に関する適切な対応について、具体的に理解する。
4. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン()や近年のデータに基づく、こどもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
5. こどもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、
「2018年改訂版
保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣・文部科学省・厚生労働省)

各回の内容

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
2. 保育における健康及び安全管理
3. こどもの体調不良時等に対する適切な対応
4. 応急処置
5. 救急処置及び救急蘇生法
6. 感染症対策・感染症発生時と罹患後の対応
7. 保育における保健的な対応
8. 健康及び安全の管理の実施体制

準備学習(予習・復習等)

1. 次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

1. 小テスト 3回程度(70%)
2. 意欲・関心・態度(10%)
演習への取り組み態度、講義を積極的な学びの場に行っているか等を振り返り用紙も含めて評価する。
3. 自己評価(演習内容について自分の到達度評価)(20%)

教科書

子どもの保健・演習 すこやかな育ちをサポートするために
兼松百合子 他著 同文書院

こどもの保健(演習)

概要

保育における保健的な視点を踏まえ、子どもにとっての健康的で安心できる環境づくりや日常的な養護について学ぶ。子どもが体調不良の際にどのように対応するか等具体的な方法を学ぶ。

担当教員	山下 敦子
授業形態	演習
学期	2年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年生
時間数	7.5
単位数	1

目標

1. 子どもの健康状態を把握できるようになる。
2. 子どもの日常生活における養護について具体的に学ぶ。
3. 集団保育における健康管理について具体的に学ぶ。
4. 集団保育における健康教育について具体的に学ぶ。

各回の内容

1. 日常生活の養護
2. 授乳・調乳について
3. 離乳食・幼児食について
4. 子どもの睡眠について子どもと遊び
5. 身体の清潔について（沐浴など）
6. 排泄・トイレとトレーニング
7. 歯磨き
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

1. 講義受講の前に予習として学習を進める
2. 講義受講後は、復習に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テストを行い、内容の理解について確認する。(70%)
具体的な養護内容や方法についてどのぐらい身につけたか自己評価する(30%)

教科書

子どもの保健・演習 すこやかな育ちをサポートするために
兼松百合子 他著 同文書院

参考文献

社会的養護

概要

社会的養護の対象や制度・実施体制について概観し、さらに、社会的養護の現代社会におけるその意義について理解を深める。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。
 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護について理解することができる。
 社会的養護の制度や実施体系について理解することができる。
 社会的養護の現状と課題について理解することができる。

各回の内容

1. 社会的養護の歴史および社会的養護の理念と概念
2. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
3. 児童の権利擁護と社会的養護
4. 社会的養護の制度と法体系
5. 社会的養護の仕組みと実施体系
6. 家庭養護と施設養護
7. 社会的養護の専門職
8. 施設養護の基本原則
9. 施設養護の実践
10. 施設養護とソーシャルワーク
11. 施設等の運営管理
12. 専門職の倫理の確立
13. 被措置児童等虐待の防止
14. 社会的養護と地域福祉
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポート作成を求めたり、確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

相澤譲治・井村圭壯 編著「保育と社会的養護」学文社（2014年）

参考文献

その都度、紹介する。

社会的養護内容

概要

社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解する。また個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について理解する。さらに社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶことができる。
 施設養護等の実際について学ぶことができる。
 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶことができる。
 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解することができる。
 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。

各回の内容

1. 社会的養護の実施体系および児童の権利擁護と保育士の倫理・責務
2. 日常生活支援(事例分析)
3. 治療的支援(事例分析)
4. 自立支援(事例分析)
5. 個別支援計画の作成
6. 記録および自己評価
7. 社会的養護にかかわる専門的技術
8. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポート作成を求めたり、確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート50%

授業の振り返り50%(採点后に返却する)

教科書

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習指導

概要

保育実習（保育所）に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方に関する基本的事項などを理解する。また、実習日誌、指導案の書き方についても学ぶ。実習後は、保育実習（保育所）について、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の課題を明確化する。

また、保育実習（施設）について、その目的や内容、方法、施設における保育士等の役割や利用者にかかわる援助のあり方に関する基本的事項を理解する。実習日誌の書き方についても学ぶ。実習後は、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の課題を明らかにする。

担当教員	長谷川・坂本・齋藤
授業形態	演習
学期	1年～2年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年・2年
時間数	90分×15回（1年後期より2年前期まで、15回以上行う）
単位数	2

目標

- 1・実習の意義や目的、内容を理解できる。
- 2・子どもや利用者の人権、最善の利益の考慮、守秘義務について理解する。
- 3・保育・支援計画、実践、記録、評価について理解する。
- 4・保育所や施設における保育士の役割、援助の在り方について理解する。
- 5・実習で体験し学んだことを整理して確認し、自己の課題を明確にする。

各回の内容

1. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
2. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
3. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
4. 実習の目的・内容・方法の理解
5. 実習の目的・内容・方法の理解
6. 実習の目的・内容・方法の理解
7. 子ども・利用者の人権と最善の利益、守秘義務について
8. 実習に向けての自己課題の明確化
9. 実習日誌の書き方についての指導
10. 指導案の書き方の指導
11. 実習に際しての留意事項
12. 実習の体験の発表と共有化
13. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
14. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
15. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
16. 各実習の事前事後に上記の指導を行う。

準備学習（予習・復習等）

配布資料や教科書を熟読し、実習の意義や観察の視点、記録の書き方などについて理解に努める。授業時間外でも、実習に向けて、教材研究や記録の練習などに取り組むこと。実習後は、体験を通しての学びを深め、今後の課題・目標を明らかにし、次の実習に向け、準備を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返り30%、課題レポート50%、提出物20%

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「福島県保育実習施設」、福島県保育者養成校連絡会編
- 3：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館
- 4：「ことばと表現力を育む児童文化」、川勝泰介ら著、萌文書林

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習指導

概要

保育実習（保育所）での課題をもとに、保育実習に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法などを学び、理解を深める。また実習後は、実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

担当教員	長谷川・齋藤
授業形態	演習
学期	2年前期・後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

- 1・保育実習の目的や内容、方法などを理解しながら、総合的に保育について学ぶ。
- 2・保育の実践力を培う。
- 3・保育士の専門性や職業倫理について理解する。
- 4・実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、今後の課題を明確にすることができる。

各回の内容

1. 保育実習に向けての課題の確認、実習の目的、内容の理解
2. 子どもの最善の利益を考慮した保育
3. 個々に応じた保育、保護者支援について
4. 保育の計画と実践、評価
5. 保育の計画と実践、評価、実習の留意事項の確認
6. 実習体験の共有化、発表
7. 実習の総括と自己評価、課題の明確化、個別指導
8. 実習の総括と自己評価、課題の明確化、個別指導

準備学習（予習・復習等）

保育実習（保育所）を振り返り、に向けての課題を明らかにして各自準備を進める。授業時間外も教科書を読み、教材研究、日誌、指導案などについても準備しておくこと。オリエンテーションで実習先からの指示があった場合は、それに向けての準備も行う。実習後は、今後の課題・目標に向けて、さらに保育の知識を深め、実践力を養うよう、努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート50%、振り返り30%、提出物20%

教科書

- 1:「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2:「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。

保育実習指導

概要

保育実習の目的や内容、方法などを理解する。また実習後は、実習で体験し学んだことを整理し、自己評価を行い、さらに、保育に対する課題や認識を明確にする。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。
 保育実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実践力を培うことができる。
 保育士の専門性と職業倫理について理解することができる。
 実習の事後指導をととして実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

各回の内容

1. 事前指導	児童福祉施設等についての基本的理解	子どもの最善の利益を考慮したかかわり・子どもの状態に応じた適切なかかわり
2. 事前指導	保育の表現技術を生かした実践	
3. 事前指導	支援計画と実践・観察	
4. 事前指導	記録、自己評価に基づく支援の改善	
5. 事前指導	保育士の専門性と職業倫理・実習に際しての留意事項	
6. 事後指導	実習の振り返り	
7. 事後指導	実習体験の発表と共有化	
8. 事後指導	実習の総括・自己評価と自己課題の明確化	

準備学習（予習・復習等）

配付資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。
 実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り30%
 レポート50%
 提出物20%

教科書

使用しない。
 必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』
 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』

保育実習（施設）

概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
 なお、実習期間中に担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・絹川・奥田
授業形態	実習下・齋藤
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。
 観察や子ども等々のかかわりをとおして子ども等への理解を深める。
 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶことができる。
 支援計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解することができる。
 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。

各回の内容

1.	10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。
2.	〔施設の役割と機能〕 施設の生活と一日の流れを理解し、その役割と機能についても理解する。
3.	〔子ども(利用者)理解〕 子ども(利用者)の観察とその記録を通して子ども(利用者)への理解を深める。
4.	〔子ども(利用者)理解〕 個々の状態に応じた援助やかかわりを通して子ども(利用者)への理解を深める。
5.	〔養護内容・生活環境〕 保育士等の職員からの指導を通して、計画に基づく活動や援助について理解する。
6.	〔養護内容・生活環境〕 子ども(利用者)の心身の状態に応じた対応について理解する。
7.	〔養護内容・生活環境〕 子ども(利用者)の活動と生活の環境とのかかわりや健康管理、安全対策について理解する。
8.	〔計画と記録〕 保育士等の職員からの指導を通して、支援計画およびその活用について理解する。
9.	〔計画と記録〕 記録に基づく省察・自己評価について理解する。
10.	〔専門職としての保育士の役割と倫理〕保育士等の職員からの指導を通して、保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携について
11.	具体的に学ぶ。
12.	〔専門職としての保育士の役割と倫理〕 保育士等の職員からの指導を通して、保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。

準備学習（予習・復習等）

保育実習指導 の内容を整理する。
 実習施設における事前オリエンテーションの内容を整理する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

実習先の評価70%
 実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
 必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』
 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』

保育実習

概要

保育所の保育を実際に実践し、保育実習での学びや、既習の教科内容を基に、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。さらに、家庭と地域の生活実態に触れ、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を修得する。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下
授業形態	実習川・斎藤
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

- 1・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
- 2・子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通し、保育理解を深める。
- 3・既習の教科、保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- 4・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価などについて実際に取り組み、理解を深める。
- 5・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。
- 6・保育士としての自己課題を明確化する。

各回の内容

1. 保育所の役割や、養護、教育が一体となっ行われる保育について理解する。
2. 子どもの心身状態、活動を観察し、保育への理解を深める。
3. 保育士の業務や職業倫理について理解する。
4. 保育所における生活の流れや、保育の展開について理解する。
5. 環境や、生活、遊びを通して行う保育を理解する。
6. 保護者や地域への子育て支援について理解する。
7. 職員間や関係機関との連携について理解する。
8. 計画を作成、実践、省察、評価することを通し、保育の過程を理解する。
9. 10日間、上記の内容について実習を行う。詳細については、実習先によって異なる。

準備学習（予習・復習等）

保育実習（保育所）を踏まえ、自己課題を明確にしたうえで、準備を進める。日誌、指導案、教材研究についても、各自準備を進めておく。オリエンテーションで実習先から事前準備についてなど、指示があった場合は従うこと。実習後は、今後の課題・目標を明らかにし、達成できるように学びを深めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。*学則第24条

評価方法

実習先の評価70%、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%

教科書

- 1:「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2:「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館

参考文献

特になし

保育実習

概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
 なお、実習期間中に担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・絹川・奥田
授業形態	実習下・斎藤
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解を深めることができる。
 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことができる。
 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
 保育士としての自己の課題を明確化することができる。

各回の内容

- 10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。
- 【児童福祉施設等(保育所を除く)の役割と機能】 実践を通して施設の役割や機能について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「受容し、共感する態度」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども(利用者)理解」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「個別支援計画の作成と実践」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「子ども(利用者)の家族への支援と対応」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「多様な専門職との連携」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「地域社会との連携」について理解を深める。
- 【保育士の多様な業務と職業倫理】 実践や保育士等の職員からの指導を通して、保育士の業務内容や職業倫理について
- 具体的な実践に結びつけて理解する。
- 【保育士としての自己課題の明確化】 保育士としての自己の課題を明確化する。

準備学習（予習・復習等）

保育実習指導 の内容を整理する。
 実習施設における事前オリエンテーションの内容を整理する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

実習先の評価70%
 実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
 必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』
 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』

保育・教職実践演習(幼稚園)

概要

「親と子の広場」に参加し、現代の子どもの生活実態について調べるなど、保育現場で活かすことの出来る知識・技術を学ぶ。さらに、グループワークを通し、保育現場同様、仲間とともに事例を深める体験をする。

担当教員	齋藤美智子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

グループワークを通し、他の学生のアイデアから、新しい学びを得るとともに、仲間と保育を深める喜びを感じる。また、実習以外でも、意識的に子どもと触れ合おうとする意欲をもつ。保育現場で役に立つ実践力を身に付ける。

各回の内容

1. 保育者とは（役割・心構え・職務内容など）
2. 事例研究
3. 事例研究
4. 事例研究
5. まとめ 発表
6. ゲストスピーカー講話「現状と課題」
7. グループワーク
8. 事例研究
9. 事例研究
10. 事例研究
11. 事例研究
12. まとめ 発表
13. ゲストスピーカー講話「現状と課題」
14. グループワーク
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

- ・使用した資料などを読み返し、教材研究や子どもへの理解を深める。
- ・予習として「親と子の広場」への参加や保育施設等のボランティアを行い、子どもと接する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小レポート30%
レポート70%

教科書

「どのこにもあ～楽しかった！の毎日を」ひとなる書房

参考文献

その都度、授業で紹介する。

児童と共に

概要

人間の発達の基本的事項や各発達段階における子どもの特徴について心理学的な知見から学習する。学習した内容を基に保育場面における子ども理解を深める。

担当教員	山下 敦子
授業形態	講義
学期	2年前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年生
時間数	15
単位数	2

目標

(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程を理解する。

1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。

2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程を理解する。

1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。

2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。

3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

各回の内容

1. 教えはくくむ心理学とは～子どもを理解することとは～
2. 人間の発達について考える 1) 発達とは 2) 遺伝と環境 3) 学習の臨界期と敏感期
3. 発達の基礎理論
4. 運動機能の発達
5. 言語の発達・情動の発達
6. 社会性の発達
7. 知的発達のメカニズム～認知機能の発達～
8. 人格発達の基礎 1)フロイトの発達段階説 2) エリクソンの発達理論 3) ハヴィガーストの発達課題
9. 記憶について
10. 学ぶことと考えること
11. 学習理論・主体的動機づけ 1) ほめることの大切さ 2) やる気を考える
12. 学級という社会 1) 集団づくり 2) 教育成果の評価
13. どのように教えるか
14. 困難を抱える子どもたち 1) 発達障害とは 2) 主な発達障害
15. 特別な社会的ニーズのある子どもたちへの支援

準備学習（予習・復習等）

1. 次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト70点（14回×5点） レポート30点

教科書

やさしい教育心理学（鎌原雅彦・竹網誠一著、有斐閣アルマ）

参考文献

育ちを支える教育心理学（谷口明子・廣瀬英子編著、学文社）
手に取るように発達心理学がわかる本（小野寺敦子 かんき出版）

こどもの食と栄養

概要

保育者として、子どもの健康と食生活の現状と栄養の基本について理解し、保育所・幼稚園・家庭における食事と栄養について問題を発見し、適切に対応できるよう学ぶ。保育園・幼稚園・家庭・地域において、子どもの発達や状況に応じて食の支援をできるよう、教材の特徴や活用方法、食育の企画・実施・評価についても学ぶ。

担当教員	齋藤 瑛介 斉藤広子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

子どもの健康と食生活の現状、栄養に関する基本知識について理解する。食育の事例、教材の特徴を知り、活用できるようになる。食物アレルギーなどの子どもについて理解し対応できるようになる。食育プログラムの計画・実施・評価ができるようになる。子どもの調理体験の意義と方法について理解し実践できるようになる。

各回の内容

1. 日本と世界の子どもの取り巻く食環境と栄養問題
2. こどもの健康と食生活の意義 実習を通して感じた食の課題
3. 栄養の基本(1) 栄養とは
4. 栄養の基本(2) 各栄養素の働きと食品
5. 栄養の基本(3) 栄養と疾患
6. 栄養の基本(4) 食事バランスガイドの活用方法
7. 栄養の基本(5) 食事摂取基準
8. こどもの発育・発達と食生活(1) 離乳期・幼児期の食生活と栄養
9. こどもの発育・発達と食生活(2) 献立作成(食事とおやつのとり方)
10. 和食の基本(だし・旨味)
11. こども食育クッキングの進め方(1) 親と子の広場での実践
12. こども食育クッキングの進め方(2) モデル献立(収穫から調理まで)
13. 食育の基本と内容
14. 特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

予習として、授業で指示された範囲の教科書の該当箇所を読み、わからない点を調べておく。
復習として、授業で学んだ内容を整理し、レポートにまとめる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

テーマ別小テスト40%、レポートの提出40%、授業への取り組み(リアクションペーパー等)20%によって総合的に評価する。

教科書

菅原園他著『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院, 2017年2月発行

参考文献

高橋美保著『保育者のための食育サポートブック』ひかりのくに

こどもと生活

概要

時代や環境の変化に伴い、子どもの遊びや生活は変化している。子どもの生活について現状を把握し、その問題点を探る。さらに、遊びが、どのように生活と結びつき、子どもの成長にいかに関与しているかを考察していく。

担当教員	長谷川美香
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会においてこどもを取り巻く生活環境が多様化していることを理解し、保育者として必要な配慮、援助について考えることができるようになる。また、グループワークでは積極的に意見を出し合い、取り組めるようになる。

各回の内容

1. 子どもの生活の場

2. こどもの権利から見た生活環境

3. 子ども主体の生活、遊びの重要性

4. 子ども主体の生活、遊びの重要性

5. 子ども主体の生活、遊びの重要性

6. 保育現場、集団の中の生活

7. 保育現場、集団の中の生活

8. 子どもと食生活

9. 子どもと食生活

10. 生活の中の保健・安全・衛生

11. 障がいのある子どもとの生活

12. 総合的な活動

13. 小学校との連携

14. こどもの生活と自立

15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

子どもの家庭生活・園生活全般に興味関心を持つ。親と子の広場に参加し、子どもの遊びの様子を観察したり、保護者から家庭の様子を聞くことや、保育者が生活の中でどのような点に配慮し、活動を計画、実践していたか、これまでの実習を振り返ることも参考となる。また、授業の予習・復習をすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループワークへの取り組み20%

提出物 30%

最終レポート50%

教科書

特になし

参考文献

その都度紹介する

こどもと算数

概要

算数や数学を苦手、きらいという人は少なくありません。また、公式を覚えて、問題に当てはめるとしか考えていない人も多いのです。それは、イメージや感覚を用いることを経験し、その楽しさを知らないためでもあります。この授業では、折り紙を用いたり、立体を作ったりしながら、身体感覚を生かした算数・数学を学び、保育に生かせることを考えていきたいと思います。

担当教員	山口 榮一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

- ・イメージを生かした算数を学ぶ。
- ・公式を、感覚を用いて導く方法を知る。
- ・感覚と数学の関係を理解する。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 折り紙算数 - 算数・数学の理解に重要な感覚とイメージ
3. 切り紙算数 - 算数・数学の理解に重要な感覚とイメージ
4. 作りながら学び、学びながら遊ぶ - 立体をつくる
5. 作りながら学び、学びながら遊ぶ - 立体を測る
6. 数のパズル - 数量の感覚を鍛える
7. 図形のパズル - 図形の感覚を鍛える
8. 授業のまとめ
9. 試験

準備学習（予習・復習等）

課題をやってくる。
はさみと折り紙を用意する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業の振り返り（40%）
テスト：授業の感想を含む（60%）

教科書

山口榮一「おりがみで学ぶ図形パズル」、 「切りがみで学ぶ図形パズル」ディスカヴァー・トゥエンティワン（各1000円＋税）

参考文献

なし

保育表現技術 (音楽表現)

概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏などの技法を身につける。できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。弾き歌いができるようにする。楽譜を読むために必要な基礎的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7・5回
単位数	1

目標

1年生で学んだ音楽の技術をさらに向上させる。
子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 楽譜の基礎知識(ソルフェージュ)
2. 4月の歌
3. 5月の歌
4. 6月の歌
5. 7月の歌
6. 8月の歌
7. 9月の歌
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

それぞれに出された課題を完全に弾き歌いできるように練習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。*学則第24条

評価方法

実技試験90%、筆記試験10%

教科書

こどもの歌200(チャイルド本社)
プリント等

参考文献

授業時に適宜紹介する。

保育表現技術 (音楽表現)

概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法など技法を身につける。できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。弾き歌いができるようにする。楽譜を読むために必要な基礎的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田・菅野(弘)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

1年生で学んだ音楽の技術をさらに向上させる。
子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 9月の歌
2. 10月の歌
3. 11月の歌
4. 12月の歌
5. 1月の歌
6. 2月の歌
7. 3月の歌
8. 個人発表

準備学習(予習・復習等)

1年次までの経験を生かしながら、こどもの歌にとどまらず、ジャンルにこだわらない楽曲選択によって、よりピアノの技能を高めておくと、将来の保育業務にも大きく役立つ。そこにおいては、担当教員のアドバイスを積極的に活用すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

個人発表による課題達成度100%

教科書

こどもの歌200(チャイルド本社)
他、プリント等

参考文献

授業時に紹介する。

保育表現技術 (造形表現)

概要

保育の現場で必要な造形表現を保育者自身が喜びをもってできるよう、平面・立体表現ともに、モダンテクニックなど、幅広く素材や技法を追求して作品制作をする。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

子供に図画工作を楽しむことを教えるために、保育者自身が造形活動を通して、その楽しさ・面白さを味わい、豊かな感性や創造力を身に付けることができる。そのために必要な材料や道具等に関する具体的、専門的知識や技能を身に付けることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 色を楽しむ(クレヨンステンシル)
3. 色を楽しむ(クレヨンステンシル)
4. 色を楽しむ(クレヨンステンシル)
5. 水彩色鉛筆の表現
6. 水彩色鉛筆の表現
7. 水彩色鉛筆の表現
8. 水彩色鉛筆の表現
9. 水彩色鉛筆の表現
10. 水彩色鉛筆の表現
11. 水彩色鉛筆の表現
12. 水彩色鉛筆の表現
13. 思いがけない造形から(シャボン玉アート)
14. 思いがけない造形から(シャボン玉アート)
15. 思いがけない造形から(シャボン玉アート)

準備学習(予習・復習等)

事前に題材のアイデアスケッチや資料収集をする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題制作の構想10%
課題作品評価80%
制作の意欲・態度10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術（言葉）

概要

保育表現技術（言葉）同様で、特に「季節」、「お話」から子供の感性を豊かに育む作品制作（教材研究として）をする。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

子どもが経験から育んだ言葉やそのイメージをさら豊かに育てるための題材を、造形活動を通して得た自己の感性や知識・技能を生かし、作品として制作することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 四季を味わう造形活動（フロッタージュ・コラージュ）
3. 四季を味わう造形活動（フロッタージュ・コラージュ）
4. 四季を味わう造形活動（フロッタージュ・コラージュ）
5. 四季を味わう造形活動（フロッタージュ・コラージュ）
6. 和の造形（染色 板締めしぼり）折り
7. 和の造形（染色 板締めしぼり）折り
8. 和の造形（染色 板締めしぼり）染め
9. 和の造形（染色 板締めしぼり）染め
10. 和の造形（染め紙を使って）
11. 和の造形（染め紙を使って）
12. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり
13. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり
14. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題制作の構想10%
課題作品評価80%
制作の意欲・態度10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育相談実践演習

概要

地域における子育て支援広場の意義や役割、実際に学ぶ。
保育参加観察を通して、保育者の保護者支援について学び考える。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

地域子育て支援広場に参加し、保護者支援の実際を学ぶ。

各回の内容

1. 地域における保育相談支援とは
2. 保護者理解と保育相談支援の実際
3. 保育者の専門性と保育・子育て支援
4. 地域のことを理解する
5. 保育・子育て支援の環境構成
6. 保護者とのかかわりと子育て支援の意味
7. 省察 実践の中の気づき
8. 省察 まとめ

準備学習（予習・復習等）

地域子育て支援広場に参加することで、保護者支援に関心を持つ。

参加観察においては積極的に保護者とかかわり、子育て支援の意味について深く考える機会にすること。

参加後のカンファレンスにおいて、話し合いに積極的に参加して、自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

参加観察の態度・記録・カンファレンスなど総合的に評価する 60%
最終レポート40%

教科書

子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習 萌文書林 入江礼子・小原敏郎・白川佳子編著

参考文献

なし

保育内容演習(総合)

概要

学んだ保育内容について、総合的な芸術表現としたテーマ、内容を決め、発表を行う。

担当教員	堺秋彦
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

学んだ保育内容(5領域)を振り返り、「子どもが興味・関心を持って鑑賞し、想像力を養う作品」を創造し、表現する。子どもに伝えたい「テーマ」を決め、「テーマ」に基づき作品を制作する。

各回の内容

1. これまでの学修を振り返る
2. 身体表現の総合
3. 音楽表現の総合
4. 造形表現の総合
5. 言語表現の総合
6. 健康についての総合
7. 人間関係についての総合
8. 環境についての総合
9. 言葉についての総合
10. 表現についての総合
11. 総合表現としての内容 1
12. 総合表現としての内容 2
13. 総合表現としての内容 3
14. 総合芸術表現発表会
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

- ・グループでオペレッタを創作し、道具や衣装を制作する。
- ・グループでオペレッタを練習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

学習成果としての、各内容の評価60%
総合芸術表現発表会の評価と自己評価40%

教科書

特になし

参考文献

これまでの「保育内容」の授業で使用した教科書や参考書、資料等

特別研究 子育て支援

概要

子どもを取り巻く環境はどうなっているのか、育児不安を持つ保護者が多いと言われるのはなぜかなど、子育ての現状を把握しながら、それぞれが特に興味、関心をもったテーマについて、調査、研究し、論文にまとめる。

担当教員	長谷川美香
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

- 1・それぞれが選んだテーマについて、広い視点で考え、判断する力を養う。
- 2・テーマの設定、文献や資料の探し方、報告や発表の仕方を学ぶ。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 現代の子育て環境、支援の状況
3. 現代の子育て環境、支援の状況
4. 研究テーマの検討
5. 研究テーマの検討
6. 研究テーマの検討
7. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）
8. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）
9. 調査
10. 調査
11. 調査
12. 調査
13. 中間報告
14. 論文作成
15. 論文作成
16. 論文作成
17. 論文作成
18. 論文作成
19. 論文作成
20. 論文作成
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 最終報告
25. 校正・印刷・製本
26. 校正・印刷・製本
27. 校正・印刷・製本
28. 発表会準備
29. 発表会準備
30. 発表会準備

特別研究 子育て支援

準備学習（予習・復習等）

授業時間外に、文献を読む、論文を書くための資料収集をする、調査を行うなど各自準備を進める。子育て支援に関するニュースなどにも関心を持ち、選んだテーマに関する知識を深める。本学の「親と子の広場」や、子どもや保護者と接することのできる場への積極的な参加も望む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

研究に取り組む姿勢50%
論文内容50%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

特別研究 こどもとことば

概要

こどもの言葉の発達とそれを支える保育や家庭環境などについて問題意識を持ち、研究テーマを設定して研究を進め、論文としてまとめる。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

実習や参加観察の場で問題意識をもち、自分のテーマについて論理的に考察することができるようになる。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 研究テーマの検討
3. 参加観察記録による話し合い
4. 参加観察記録による話し合い
5. テーマの課題についての話し合いと設定
6. 実習で出会ったエピソードの記録
7. 実習で出会ったエピソードについてのカンファレンス
8. 実習で出会ったエピソードのカンファレンス
9. 研究方法の検討
10. 研究方法の検討
11. 研究方法の検討
12. フィールドワーク
13. フィールドワーク
14. フィールドワーク
15. 中間まとめ
16. 実習であったエピソードのカンファレンス
17. 実習であったエピソードのカンファレンス
18. 論文作成
19. 論文作成
20. 論文作成
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文修正
25. 論文修正
26. 発表の仕方
27. 発表準備
28. 発表準備
29. 発表会
30. 発表会

特別研究 こどもとことば

準備学習（予習・復習等）

親と子の広場やボランティアでの子どもの姿や実習で出会った事例など関心を持って自分の課題を見つける。
フィールドワークや実践の中から選択した研究課題を深め、文献や調査での裏付けを積み上げながらまとめること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

研究に取り組む意欲・態度30%
論文内容70%

教科書

なし

参考文献

その都度紹介する

特別研究 こどもと福祉

概要

こども家庭福祉に関する研究テーマを設定し、研究をすすめ、論文としてまとめる。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

論文作成にあたっての基本的姿勢が身につく。
こども家庭福祉に関する専門的な知識を習得することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討
5. 研究テーマの検討
6. 研究テーマ決定・報告
7. 研究方法の検討
8. 論文構成の検討
9. 文献調査等
10. 文献調査等
11. 文献調査等
12. 文献調査等
13. 中間報告会
14. 中間報告会
15. 研究テーマおよび研究方法の再検討・修正
16. 論文構成の再検討・修正
17. 文献調査等
18. 文献調査等
19. 文献調査等
20. 文献調査等
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文作成
25. 論文作成
26. 論文作成
27. 論文作成
28. 報告会
29. 報告会
30. 印刷・製本

特別研究 こどもと福祉

準備学習（予習・復習等）

研究テーマに関する資料を収集する。
収集した資料を読み、まとめる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

中間報告40%
研究成果(論文)60%

教科書

使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献

研究テーマに応じて、随時紹介する。

特別研究 こどもと健康

概要

「こどもの健康」とは何かを理解し、乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが健康で日々の生活を送れるよう、活動のあり方や方法を理論を踏まえて研究する。そのうえで、こどもにとって何が大切で、どのような保育者が求められるのかを熟考し、研究をまとめていく。主体性かつ独自性のある研究が求められる。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

現代社会におけるこどもたちの現状と課題を見つめ、こどもの健康について考え、研究テーマを設定し、研究論文にまとめて発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション	
2. 文献・資料検索および収集の方法	
3. 研究テーマの検討	
4. 研究テーマの検討	
5. 論文とは(1)	
6. 論文とは(2)	
7. 研究テーマの決定・報告	
8. 研究方法の検討	
9. 論文構成の検討	
10. 文献調査等	
11. 文献調査等	
12. 文献調査等	
13. 中間報告会	
14. 中間報告会	
15. 振り返り、中間のまとめ	
16. 夏休みの課題	
17. 文献調査1	
18. 文献調査2	
19. 文献調査3・素材整理・論文作成	1
20. 文献調査4・素材整理・論文作成	2
21. 文献調査5・素材整理・論文作成	3
22. 文献調査6・素材整理・論文作成	4
23. 素材整理・論文作成	5
24. 素材整理・論文作成	6
25. 素材整理・論文作成	7
26. 最終報告会	1
27. 最終報告会	2
28. 校正・印刷製本	1
29. 校正・印刷製本	2
30. 特別研究発表会	

特別研究 こどもと健康

準備学習（予習・復習等）

自分の研究内容について積極的に情報収集を行うこと。図書館を利用し、文献を集めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

研究に取り組む姿勢 50%（研究方法の報告書等の内容が適切である）
研究内容の成果 50%

教科書

特に指定しない

参考文献

- ・ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成著 ナツメ社
- ・それぞれの研究テーマに沿って授業で紹介する。

特別研究 こどもと運動あそび

概要

乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが心身ともに健康で日々の生活を送れるよう、「運動遊び」と「表現遊び」に視点を当て、活動のあり方や方法を理論を踏まえて実践し、実践力を身に付ける。運動遊びの「考案」「計画」「実践」「省察」を繰り返し行い、成果として、発達段階に沿った「運動遊びプログラム」を作成する

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

現代社会におけるこどもたちの現状と課題を見つめ、幼稚園教育要領並びに保育所保育指針が謳っている領域「健康」と「表現」を踏まえて、こどもにとって望ましい発達の方について考え、幼児期の発達段階に沿った「運動遊びプログラム」を作成し、発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 運動あそびの考案1
4. 運動遊びの実践1（模擬保育実践）
5. 運動遊びの振り返り1
6. 運動遊びの考案2
7. 運動遊びの実践2（模擬保育実践）
8. 運動遊びの振り返り2
9. 運動遊びの考案3
10. 運動遊びの実践3（模擬保育実践）
11. 運動遊びの振り返り3
12. 運動遊びの考案4
13. 運動遊びの実践4（模擬保育実践）
14. 運動遊びの振り返り4
15. 前期まとめ
16. 運動遊びの指導計画1
17. 運動遊びの実践1（幼児対象保育実践）
18. 運動遊びの振り返り1
19. 運動遊びの指導計画2
20. 運動遊びの実践2（幼児対象保育実践）
21. 運動遊びの振り返り2
22. 運動遊びの指導計画3
23. 運動遊びの実践3（幼児対象保育実践）
24. 運動遊びの振り返り3
25. 運動遊びの指導計画4
26. 運動遊びの実践4（幼児対象保育実践）
27. 運動遊びの振り返り4
28. 印刷・製本
29. 特別研究発表会
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもと運動あそび

準備学習（予習・復習等）

- ・年間を通じて身近な保育施設や公園などでこどもの様子を観察し、年齢別にこどもの特徴をまとめる。
- ・こどもにとっての「運動」について、本やインターネットで調べる。
- ・考案した「運動遊び」を保育現場で実践する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

研究に取り組む姿勢（考案、計画、実践） 50%
研究の成果 50%

教科書

なし
各自研究に必要なものを用いる

参考文献

その都度、紹介する

特別研究 こどもの育ちと保育者

概要

子どもが様々な体験を通して心が揺さぶられ、育っていく姿を見つめ、共に在る保育者の存在や思い、具体的ななかかわりについて、体験的あるいは文献などを用いて研究していく。

担当教員	奥田 美由紀
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

生き生きとした子どもを育てるために、保育者はどうあるべきか、各自の研究テーマを元に具体的に考察し理解を深め、これからの自分の保育実践に意欲を高める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討
5. 研究方法の検討
6. 研究方法の検討
7. 文献・調査・実践等
8. 文献・調査・実践等
9. 文献・調査・実践等
10. 文献・調査・実践等
11. 中間報告会（1回目）
12. 文献・調査・実践等
13. 文献・調査・実践等
14. 文献・調査・実践等
15. 文献・調査・実践等
16. 中間報告会（2回目）
17. 文献・調査・実践等
18. 文献・調査・実践等
19. 文献・調査・実践等
20. 中間報告会（3回目）
21. 研究のまとめ
22. 研究のまとめ
23. 研究のまとめ
24. 研究のまとめ
25. 中間報告会（4回目）
26. 発表準備
27. 発表準備
28. 中間報告会（5回目）
29. 発表準備
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもの育ちと保育者

準備学習（予習・復習等）

実習で経験した事例や身近な話題に興味関心を持ち、研究したいテーマを見つける。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

研究に取り組む姿勢 50%
研究内容 50%

教科書

なし
必要に応じて、資料を配布する。

参考文献

その都度、授業で紹介する。

特別研究 こどもと音楽

概要

ミーティングとリハーサルを重ねた上で、可能な限りこどもを対象とした音楽活動を展開する。具体的には、個々の学生の能力を最大限生かしながら音楽表現の幅を広げていく。そして、将来の保育業務にも活かせるよう、オリジナル作品の創作とオペレッタ制作&試演は共通の課題とする。一連の経緯は録画等で記録に残し、次回への資料とする。因みに、平成29年度は福島市役所ロビーコンサートに出演することをきっかけとして以上の研究を実施した。

担当教員	絹川文仁
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

昨今のSNSの発達によって、多様な音楽がいくらかでも気軽に楽しめるようになったが、保育における音楽の位置づけがより複雑になってきたのも事実である。そういった状況を見極めながら、保育においてどのような音楽表現（活動）がより有効であるかを探求していく。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. プロジェクト のミーティング (オリジナルの創作、オペレッタ制作について)
3. プロジェクト のミーティング (同上。以下同)
4. プロジェクト のリハーサル
5. プロジェクト のリハーサル
6. プロジェクト のリハーサル (問題点の整理)
7. プロジェクト のリハーサル (仕上げ)
8. 試演会または訪問演奏
9. プロジェクト のプログラミング (オリジナルの創作、オペレッタ制作について)
10. プロジェクト のプログラミング (同上。以下同)
11. プロジェクト のリハーサル
12. プロジェクト のリハーサル
13. プロジェクト のリハーサル (問題点の整理)
14. プロジェクト のリハーサル (アレンジ等)
15. 試演会または訪問演奏
16. 前期のまとめ
17. プロジェクト のミーティング (オペレッタ、オペラ、ミュージカル制作について)
18. プロジェクト のプログラミング (同上。以下同)
19. プロジェクト のリハーサル
20. プロジェクト のリハーサル (問題点の整理)
21. プロジェクト のリハーサル (アレンジ等)
22. プロジェクト のリハーサル (仕上げ)
23. 訪問演奏または試演会
24. 各プロジェクトの記録の整理
25. 各プロジェクトの記録の整理
26. 研究報告 (小論文) のまとめ方について
27. 研究報告 (小論文) のまとめ方について
28. 研究報告 (小論文) のまとめ方について
29. 研究報告 (小論文) のまとめ方について
30. 総括、特別研究報告会に向けてのリハーサル

特別研究 こどもと音楽

準備学習（予習・復習等）

個々の音楽経験を活かしつつ、こどもの音楽に応用できそうなものを積極的に模索すること。また、柔軟な発想で素朴な事象も音楽表現に役立てること。尚、演奏等の記録は将来の業務の糧となるので、個々の記録に残すこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試演会または訪問演奏での評価（70%）
レポート（30%）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する。

特別研究 こどもと遊び

概要

- ・親と子の広場などに入りながら、事例をまとめ、深めていく。
- ・自作の手作りおもちゃを使いながら、子どもとの関わり方などを体験的に学び、考察する。

担当教員	齋藤美智子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

子ども理解を深め、事例報告等の形式で論文をまとめる。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 事例購読
3. 事例購読
4. 事例購読
5. 事例のカンファレンス
6. 事例のカンファレンス
7. 事例のカンファレンス
8. 研究計画
9. 研究目的
10. 研究方法
11. 教材作成
12. 教材作成
13. 教材作成
14. 実践
15. 実践
16. 実践
17. 論文作成
18. 論文作成
19. 論文作成
20. 論文作成
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文作成
25. 論文作成
26. 論文作成
27. 論文作成
28. まとめ
29. まとめ
30. まとめ

特別研究 こどもと遊び

準備学習（予習・復習等）

「広場」や実践の場面で記録し、考える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文作成 意欲・フィールドワークの様子等30% 本文70%

教科書

随時紹介する

参考文献